

東京都上野の防災と活性化についての提案

國學院大學久我山高等学校 2 年生 宮本 皓

1 はじめに

私は中学 3 年のときに震災について興味を持ち始めた。そのときまでは地震に対して恐ろしいイメージを持っていなかったが、首都東京直下地震のテレビ特別番組を見てから、地震に対する印象が一転した。東京に地震が来れば、被害総額は 112 兆円となり、死者・行方不明者は 10 万人にも昇るのである。そのことに衝撃を受け、私は防災に対して興味を持ち、多くの著書を読み、震災に対することを調べ、知識を増やしてきた。また、私は鉄道研究部に所属していて、鉄道に乗り色々な町に出かけるのが趣味であった。高校 2 年の春休みを利用して東京の有名な下町 上野を訪れた。

上野に到着した私はまず「アメヤ横丁商店街」を訪れた。各商店からは客寄せの威勢のいい声が響き、大勢の観光客や地元民で賑わっている。また年齢層も幅広く、若者から高齢者まで様々な人々が商店街を歩いていた。生まれも育ちもニュータウンであった私は新興住宅地を中心に回っていたので、上野はまったく違うタイプの町でとても新鮮に思えた。

商店街が自宅の近くに無く、町に興味をもってから、下町にあこがれていた私は、自分の想像以上の活気と下町人情にあふれていた上野をすぐに気に入り、町の調査のために何度も訪れた。訪れているうちに、上野の町機能としての危険性にも気がつき、それを改良する案を考えてみた。

上野は山手線の沿線にありながら、中古マンションの下落率が激しく^[1]、山手線沿線の住みたい町のリストにも挙がって来ない。高層マンションやニュータウンの形成が各地で着々と進む中、新しくつくることのできない下町の上野はとても貴重であり、これからも重宝にすべき町であると、私が思う。上野の震災を最小限に抑え、どうやって人気のある町に生まれ変わるかについて、日本の特徴のある町を参考に考えてみたい。

表 1 上野の長所と短所

長 所	短 所
<ul style="list-style-type: none">・ 数多くの鉄道が交差する東京の「北の玄関口」であり、交通の便は非常に良い。・ 上野の西側には谷中、根津や千駄木、東側には根岸などの町は現在でも情緒あふれる町並みが残っており、観光地として根強い人気がある。・ 上野周辺には公園、動物園や美術館などの観光スポットが数多くある。・ アメ横を初めとする商店街が数多くあり、生活利便性が非常に高い。	<ul style="list-style-type: none">・ 狭い道が多い上、商店街が特に人混みし、消防車や救急車が入りにくく、消火・救助活動に遅延が生じる可能性がある。・ 商店街に古い建築物が多く密集している。上野の地盤が悪いため、地震の際に建物が倒壊し、火災が延焼しやすい。・ 商店街以外の住宅地域にも古い家屋が多く、一方通行道路が多いので、避難が困難である。・ 上野周辺・山手線沿線上には渋谷・新宿・銀座・東京などの商業ライバル地域が多数存在する。

2 上野の現状

まず上野の長所と短所を表1にまとめ状況を整理して、改造方針を決めたい。

表1の短所の中、特に、上野は町自体が古く、道幅が狭いことや建物が古いことが顕著な問題である。しかし、上野は山手線沿線上にあり、情緒ある町並みや大規模商店街もあるため、長所を保存しつつ、短所を解決する方法を考えなければならない。

3 町改良の参考モデル

第2章でリストアップした短所を解決するために、他の歴史ある古い町ではどのように発展を遂げてきたか、および震災などの対策が施されているかを参考にしたい。

上野の周辺に秋葉原、東京、日本橋、銀座や品川があり、また上野を通る山手線の沿線上にも新宿や渋谷などデパートや百貨店の集まる商業地域が数多くある。この環境の中、どのように下町の古い町並みを生かして再開発をするかが重要である。この点にも注意し、今回、私が以下の4つの町を選び、平成20年の夏休みを利用して現地調査を行った。

- ・北千住(東京都足立区):上野と同じく東京23区内にあり、日光街道の宿場町として古くから栄えてきた町である。
- ・祇園(京都府京都市):情緒ある町並みが存在し、全国的にも有名な観光地である。
- ・富田林(大阪府富田林市):寺内町として栄えた歴史的な町並みを現在でも保存している。
- ・天理(奈良県天理市):天理教の本部がある町であり、駅前には詳細な防災マップを設置している。

以下では、以上の4つの町の長所をまとめる。

3.1 北千住

この町の特徴は「日光街道の宿場町として栄えた古い商店街と新しいデパートが共存している」ことである。北千住は東京都の足立区に位置し、JR・東武鉄道・東京メトロ・つくばエクスプレスの4社が乗り入れる東京のターミナル駅の一つである。また旧日光街道の宿場町として栄えたこの町では、商店街とデパートが共存する理想的な町でもある。共存できる原因として、デパートと商店街はターゲットにしている年齢層がまったく違うということが考えられる。実際にデパートの中に入ってみると、若年層向けのファッションが多く、客も若い人が多いが、商店街に訪れてみると、中高年の人(おそらく地元の人)が多い。また地元の人に話を伺ったところ、商店街は基本的に昔から住んでいる人が利用している傾向があることがわかった。昔からの人のつながりがあり、デパートよりも商店街を利用することが多いようである。



図1 北千住駅前

図 1 の左の写真が北千住駅の駅舎であり、中に LUMINE が入っている。同図の右の写真は駅舎のすぐ隣にある OIOI ビルである。両方とも若年層向けのファッションなどが中心である。



図 2 北千住の商店街

また、駅前の商店街は図 2 の通りである。図 2 の左の写真が宿場町通り商店街であり、旧日光街道の沿いにある。右の写真は本町通り商店街であり、商店街には中高年層の人が多く、また八百屋や雑貨店が数多くあり、地元民向けの商店街である。

3.2 祇園

この町の特徴は「観光地と一般商店街が共存する町」である。祇園は、京都市の中心に位置し、全国的に有名な観光地でもある。「花見小路」は町屋作りの古い建築物が現在でも残っており、情緒ある町並みである。花見小路では道幅の狭い裏路地でも迅速な消火活動ができるように民家から大通りの至るところに消火器が設置されている。また、商店街を見てみると、観光客を対象にした商店もあれば、地元民向けの商店もある。「観光客と地元民が共存する商店街」が形成されていることや「迅速な消火活動のための工夫」がなされていることがこの町の特徴である。



図 3 祇園

図 3 の左の写真は花見小路のワンショットであり、あたりは古い木造建築で密集されているが、同図の右の写真は消火器であり、町中のいたるところに設置されている。消防車がくるまでの火災の延焼を最小限に抑えることができる。祇園には古い木造建築物が多いので特に必要と思われる。

3.3 富田林

この町の特徴は「古い建築が残り、住民のコミュニティが重要視されている」ことである。富田林は大阪府南部に位置している町であり、寺内町(じないちょう)という地域では古い木造建築物を保存するために、1973年に「富田林寺内町をまもる会」が発足し歴史的な町を保存する運動を行っている^[2]。また、この町では、広大な敷地を持つオーナーが希望者に家の部屋を貸し出し、周辺住民が参加する連歌や音楽会なども開催している。これによって住民同士のつながりが強固なものとなり、防災・防犯につながっている。



図4 富田林寺内町

図4の左の写真は富田林寺内町の様子であり、同図の右の写真は寺内町の家に取り付けられている消火器である。祇園のように古い木造建築物が密集しているため、消火器が設置されている。

3.4 天理

この町の特徴は「駅前に防災マップ」があることである。天理駅周辺にある防災関連の位置が明確に書かれているので、緊急時に非常に役に立つ。



図5 天理市の工夫

図5の左の写真は天理駅前に設置している防災マップであり、同図の中間の写真は地図に書かれている記号の詳細である。地図に消防署や警察署のほかにも、ヘリポートの位置や避難地まで詳細に書かれている。

図5の右の画像は天理駅前の広場である^[3](「多摩地区そして日本各地の画像集」管理人下崎氏のご好意による)。このような大きいオープンスペースは震災時の避難場所や集合場として機能することもできる。

4 上野の防災と活性化に関する提案

第3章で選定して調査を行った町を参考に、上野の町再開発案を以下のように提案する。

- 1) 古くからある寺社は保存しておき、周囲の道を再整備し、情緒ある町にする。
- 2) 無理に「洒落た町」にせず、それよりも上野の特徴を生かした「下町人情」の町にする。
- 3) 上の2点を重点においた町づくりをするには、古い建築物が多く保存されることが予想されるので、耐震・防災に力を入れる。
- 4) 町の観光地の要素をより強化し、宿泊場を増やすことによって遠くからの人も集めることができる。

まず、1)と2)について詳しく説明したい。上野の周辺には高級ブランドを取り扱う日本橋・銀座があり、また山手線沿線上にはモダンな渋谷、新宿や品川があるため、洒落た町にすることにはライバルが多い。東京都に数少ない「下町人情」の町にすることによって個性が生まれ、客の取り合いが起きにくい。大阪府の富田林の例で取り上げたように、古い木造建築を利用してイベントを企画し、住民の繋がりを深め、防犯意識を高めることによって犯罪が起りにくい町にもなる。また、上野では現在でもデパートの松坂屋と商店街が共存している。これは、再開発の際に北千住のように、商店街とデパートによって幅広い年齢層に対応でき、町の活性化につながるができる。

3)については、古い建築物を保存することは、「地震と火災に弱い家を保存する」ことにつながる。耐震・防災は町の再開発上で最重要となる。耐震は区などが耐震工事の援助金を出し、防災は京都の祇園や大阪富田林のように、消火器材をいたるところに取り付けることで火災の延焼と被害者を最小限に抑えることができるであろう。木造建築は鉄筋や鉄骨の建築物よりも建築時のコストが低く、固定資産税も低いので、維持コストも低く、比較的少ない資金で再開発を実現することが可能である。

4)は観光地化について述べたが、宿泊場を増やすことによって上野から離れた場所から訪れに来る人を上野に宿泊させることもできる。また、上野は「東京の北の玄関口」となっているが、東京駅からも近いので、東北や北海道の観光客のほか、西日本の客も容易に訪れることができる。西日本に木造建築物や寺社を観光地とした京都や奈良はあるが、上野と京都・奈良の大きな違いは「下町人情」である。京都は落ち着いた町が多いことに対して、活発な下町としての上野をアピールすれば、関西の観光客も集めることが可能ではないであろうか。

5 おわりに

ニュータウンが現在でも各地で着々と新しく生まれてきているが、下町を新しくつくることはできない。活気にあふれ人情がある商店街は下町が持つ貴重なものであり、「日本の文化」としてこれからも残して行かなければならないものであると思う。本文はその代表的な町である上野に焦点を当て、町を防災と活性化の方法を考えた。

今回の結果を基に、さらに、防犯面や商店街の活性化などについて検討し、上野をさらにより町に変貌させることは今後の課題である。

参考文献

- [1] 山崎隆:東京のどこに住むのが幸せか、講談社、2007年。
- [2] 大阪市街地再開発促進協議会編集:都市再生・街づくり学 - 大阪発・民主導の実践、創元

社、2008。

- [3] 「多摩地区そして日本各地の画像集」：<http://tamagazou.machinami.net/index.shtml>